

しまね学校図書館活用コンクール 取組の概要

学校名 西ノ島町立西ノ島小学校

1 応募部門 ※ 応募する部門に○を付けてください。

(○) 読書活動部門

() 学校図書館を活用した授業部門

2 実践のねらい

- ・子どもや地域の人が集うような図書館づくりを通して、読書に親しむ気持ちを育てる。
- ・相互の読み聞かせや児童の主体的な活動を通して、主体的に本に関わろうとする態度を育てる。
- ・楽しい読書活動を通して、様々なジャンルの図書から発展的に学びとる能力を育てる。

3 実践の概要（学校図書館とのかかわりがわかるように記すこと。）

3校が統合した本校図書館は、3校からの持ち寄った図書と書架を配置することからスタートした。職員の尽力により4月開館にこぎつけたが、学校司書を中心に、学校図書館の活動としては全てがゼロからのスタートであった。まず、子どもや地域の人が集まることで旧小学校の枠を超えた人間関係を築く拠点とし、「本が人をつなぐ」という視点から、温かな雰囲気のもとで読書に親しむ環境づくりをすることにした。そして、読書の質や量を学力アップにつなげるために、学校司書からはたらきかけ、児童委員会からはたらきかけを実践していった。

①読書の質・量アップ

・読書マラソン

「読書マラソンカード」を全校児童に配布し、読書を進めながらカードのマスを塗りつぶしていく。カードがいっぱいになると、「3冊貸し出しチケット」がもらえる仕組み。読書量アップを目指している。

・チャレンジ図書

低・中・高学年ごとに読んでほしい図書を一覧表にして「チャレンジ図書カード」を作成する。児童はこの中から選書して読むごとにチェックし、様々な種類の図書が選べるように配慮している。

・朝読書

読み聞かせをする火曜日以外毎日15分の帯時間を設定して、全校児童が読書に親しむ。

・家読

家庭における生活時間を家族で相談し、家庭学習に家読を入れてもらう。

②ふれあいアップ

・親子読書

参観日の折に親子で選書し、親が子に読み聞かせをしたり、一緒に読んだりする。家庭での読み聞かせのきっかけづくりとなることを願っている。

・なかよし読書

低学年（1～3年生）と高学年（4～6年生）がペアとなり、高学年が低学年に読み聞かせをする。高学年児童はペアとなった児童の興味関心を考慮しながら相手意識をもった選書をする。

・ふれあい読書

高齢者施設や保育園を訪問したときに、高齢者や幼児に読み聞かせをする。受け手のことを考えながら伝えたいことを届ける「発信」の楽しさを感じさせる取組である。

③児童の「動き出し」アップ～児童委員会活動を通して～

- ・西ノ島小学校図書館「ブックブックランド」の命名
統合後開館した図書館であることから、全校児童から図書館の通称を募集した。選考委員を図書委員が務め、「ブックブックランド」と命名することが決まった。
- ・図書委員の日常活動（目標提示・紙芝居）
図書委員から学期目標を提示し、達成した児童には賞状が渡される。また、昼休みに図書委員が紙芝居の読み聞かせをして希望者が聞きに来る。図書室で行うため来館者増加につながり、紙芝居終了後には引き続き図書館で本を読んだり本を借りたりする姿が見られる。
- ・集会活動における呼びかけや劇「本太郎」
月2回の児童朝会では、図書委員会からの新書紹介や取組紹介をする。図書委員による劇「本太郎」も披露した。
- ・学習とのつながりづくり
学習において積極的な図書館活用をし、授業で作った創作物語を図書館に展示して、学習とのつながりをつくっている。

④地域力アップ

- ・図書ボランティアによる環境整備
地域に呼びかけたところ、10名の図書ボランティアの申し出をいただいた。図書の整備の他、季節感あふれる掲示にも携わっていただいている。日々変化していく図書館に関心を持ちながら来館する児童も多い。
- ・図書館ギャラリー化による地域交流
切り絵の得意なボランティアさんが、作品を展示してくださった上に他の地域の方々を集めて「切り絵教室」を開いてくださった。地域交流の場となるとともに、児童と地域の方とのふれあいの場もなっている。
- ・読み聞かせ
ボランティアさんの中には、朝の読み聞かせにおいでいただける方もあり、月2回の読み聞かせをしていただいている。中には、1単位時間を使ったブックトークをしていただける方もあり、発展的読書にもつながっている。

4 実践の成果

- ・学校司書の配置とボランティア活用により、常時人がいる図書館となったことが活性化につながった。掲示や図書の配置が変化していく図書館は児童にとって魅力ある場所となり、来館者が増加した。
- ・読書マラソンやチャレンジ読書、朝読書の取組により、児童が常に本に向かう姿勢が生まれ、読書量が増加した。
- ・ふれあいを重視した読書活動を推進したことにより、「発信」の楽しさ、相手を意識した選書や読み方の工夫、お返しメッセージを受け取る喜びなど、一人読みでは味わえない読書の楽しさを感じることができた。
- ・児童委員会活動の活性化により、自分たちで読書活動を広げていこうとする意欲を醸成することができた。

※A4判で1～2枚にまとめる。